

## 「戦後50年」のときに当たって

## 日本キリスト教協議会議長・中嶋正昭

わたしたちは、アジア・太平洋戦争の敗戦から50年という歴史の節目に当たって、日本キリスト教協議会(NCC)が負っている過去から現在に至る申し開きのできない数々の過ちを神の前に告白し、神とアジアの隣人にその赦しを乞い、そのことを土台としてこれからの歩みをなしていきたいと願っています。

NCCは、敗戦後の1948年5月17日の第1回総会をもって発足しました。第1回NCC総会記録の「沿革」によりますと、

「昭和16年(1941)日本基督教団が成立し殆ど全ての教派が解消して合同した時自然日本基督教連盟も発展的解消を遂げ基督教連合会の変形となったが、終戦後の事態に又一転して教団以外に他教団の存立を見るに至り且基督教諸団体に直接教団の傘下にあらざるを以て愛く日本基督教の全般に亘連絡と国際団体との連絡のために National Christian Councilを再編成するの必要を生じ・・・(後略)」

とあります。この意味でNCCの歴史は、少なくとも日本基督教連盟の発足(1923年)に遡って見ていく必要があります。わたしたちは、NCCに関連した戦前の歴史を振り返る時、天皇制を土台にした日本の富国強兵政策の下でなされた日本の台湾・朝鮮への植民地政策や中国への侵略、そしてアジアの国々への侵略の歴史に、時には沈黙を守り、時には積極的に協力していた日本のキリスト教界の姿を見ることができます。例えば1923年9月1日の関東大震災の時に、約6,000人の在日朝鮮人が日本人によって虐殺されましたが、その同じ年に発足した日本基督教連盟はその事に関して、その後全く沈黙を守っています。朝鮮人キリスト者が、神社参拝や創氏改名、日本語の使用を強制され、それらの処置に抵抗した時も、その人達の苦難を共に負うことをしませんでした。また、わたしたちは「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」(申命記5章7節)と教えられているにもかかわらず、天皇の神格化に迎合し、礼拝の前には「宮城遙拝」を行い、「皇軍」のために祈りました。

わたしたちは神から示された預言者的役割を担わず、むしろこの世の力ある者の側に身を置いて生きたことを告白せずにおれません。これは、わたしたちの主イエス・キリストの教えに反する生き方でありました。

NCCは1948年、戦前の日本基督教連盟が国家の政策に迎合したことに対する十分な反省を表明することなく、戦前と同じ指導者でもって発足しました。また、戦後も、「師父」として天皇をたたえるなど、戦後体制の問題性を見抜くことができませんでした。

NCC第12回総会(1959年)では「皇太子殿下のご結婚に対し祝意を表する件」及び聖書の贈呈を可決しましたが、その同じ総会でNCCは、伊勢神宮の国家護持反対の決議をしました。更に第21回総会(1968年)では、政府の明治百年の記念式典を批判し、政府や政党の反動化に批判的勢力としてのキリスト教を位置づけながら、後に激しい議論を呼ぶようになった、「万国博への参加の件」を可決しました。これらの件について自ら今後も批判的に歴史的検討を続けなければならない課題だと言えます。

日本は、敗戦から50年の歴史の中でも、天皇制イデオロギーを強化しながら、アジアへの経済侵略を推し進め、国際協力の名の下に自衛隊の海外派兵を行い、国連安保常任理事国入りを目指すことによって、大国主義の道を選びとろうとしています。また憲法第9条を変えようとする勢力の台頭があり、日本の平和主義の原則が脅かされています。敗戦から50年のNCCの歩みにおいても、自らの在り方を含めてこの国の在り方を十分批判することなく、アジアの民衆の犠牲の上に立った繁栄を、それぞれ違った形で甘受してきたことを神の前に告白せねばなりません。

わたしたちは、神が預言者アモスの口を通して北王国イスラエルの犯した罪に対して語られた、「わたしは彼らが行ったすべてのことをいつまでも忘れない」(アモス8章7b)という言葉の前で、恐れとおののきをもって立っています。わたしたちは、この時に当たり、神の前で深い懺悔の思いをもってわたしたちの犯してきた罪を告白し、神とアジアの隣人にその赦しを乞うものです。わたしたちは、今までの過ちを克服するために、日韓教会協議会やアジアの諸教会との交わりを進めてきました。またキリスト教アジア資料センターを通して、日本のキリスト教界のアジア理解を深める努力をしてきました。それらを通してアジアの主にある兄弟姉妹との出会いと交わりが持てたこと、また、わたしたちの目がアジアへの正しい理解へと少しずつ開かれていったことを神に感謝したいと思います。更に、靖国・天皇制問題、部落差別問題、在日外国人の人権の問題、平和・核問題への取り組みおよび人材交流や開発プロジェクトサポート等の国際協力を通して、平和への志向を強め、アジアや世界の人々との共生をめざしてきました。特に昨年3月の第32回NCC総会では、日本軍「慰安婦」問題への取り組みおよび平和を提言する作業を進めること等を決議し、NCC全体の課題とすることを確認しました。

今日の日本の国家のあいまいな歩みの中に生きているわたしたちに「正義を洪水のように、恵の業を大河のように、尽きることなく流れさせよ。」(アモス5章24節)と呼びかけておられる神の呼びかけに今日も明日も応答し続けることによって、平和と正義といのちを大切にし、あらゆる差別に反対し、日本に住む様々な人々と共に生きる社会の形成に皆様と共に参加していきたいと願っています。

1995年1月5日